



ドクターTのひとりごと その63

村度や柵について

最近、テレビなどで「村度や柵」という言葉を耳にする機会が多い。村度の村は「人の心を推しはかること」、度も「はかる」という意味があり、かなり古くからある言葉で、もともとは「単純に相手の心を推測する」という意味で使われてきた。

村度は本来、日本人の美德であり、深い心遣いを表す言葉である。しかし、十数年前から「上役などの意向を推しはかる」ような場合に使う用法が増え、上司に気に入られるように、「へつらう」意味の特別な使い方もされるようになった。従って、もともとの村度は人として普通の感覚（おもんばかり）であるが、最近あまり良くない「へつらう」意味の村度が使われている。それぞれの人を第三者がどれだけ推しはかれるかは疑問であり、この言葉を使う時は十分な心遣いが必要である。国会の審議での村度発言がマスコミで報道されたことで、「村度」という言葉が汚れてしまったことを残念に思う。

一方、柵は、もともとは水流をせき止めるため、杭を打ち並べ、それに木の枝や竹を横たえたもので、いわゆる、世間の柵とは、切っても切れない縁、断ち切りたくても続く人間関係のことで、他人はもとより家族や友人も含まれる。従って、人間社会において「柵」は避けて通れないものであり、柵の無い付き合いや柵の無い政治はあり得ないと思う。

最近の報道で、村度や柵が悪いイメージとなってしまったが、このような使い方をする側に問題があると思うのは私だけだろうか。



図書館だより

今月のおすすめ本

藤井聡太 名人をこす少年 津江 章二

小学4年の文集で、好きなことは将棋と読書。面白かった本第1位は『海賊とよばれた男(百田尚樹著)』、2位は『深夜特急(沢木耕太郎著)』、3位は『アド・バード(椎名誠著)』を挙げ、すでに小学生離れしている。この藤井少年の奇跡の記録と強さの秘密を紹介。(西)



2030年ジャック・アタリの未来予測 -不確実な世の中をサバイブせよ!- ジャック・アタリ

人口爆発、気候変動、富の偏在、民主主義の後退、社会と家族の崩壊…。最悪の事態を予測することが、最悪を回避する最善の手段なのだ。2030年の世界を複眼的に予測し、最善を目指すための道筋を克明に述べる。(東)



▶詳しくは、東図書館(☎62・0190) 西図書館(☎75・5406)へ。

未来への新たな一歩 ~舞鶴引揚記念館開館30周年~

引揚記念館は来年開館30周年を迎えます。歴史を振り返るとともに、次世代へ語り継ぐ取り組みを紹介します。

引揚記念館建設へ~全国に広がる支援の心~

海外引揚40周年が契機となり、引揚記念館の建設への歩みが始まりました。市では、きっかけとなったシベリア抑留体験者の申し出もあり、事業費約2億円のうち7,000万円を募金で集める目標を立て、記念館建設の募金活動や関係先への協力要請などに取り組みました。

当初、募金活動が思うように進まない中で、引き揚げを実際に体験した世代である市老人クラブ連合会をはじめ舞鶴市民の機運も盛り上がり、さらに抑留体験者で国民的歌手の三波春夫さんなどもチャリティー公演を開催するなど記念館建設への期待と支援の輪が全国へ広がり、最終的には目標額を超える7,400万円が寄せられました。

また、同時に資料や体験記なども募集したところ、全国の引揚者から熱く強い思いと共に数多く届けられました。

昭和62年10月に着工した記念館は翌年3月に完成。国内で初めてとなるシベリア抑留や引き揚げに関する資料館の開館までの準備は、時間との戦いだったと当時の職員は振り返ります。資料の寄贈者へのお礼状は思いを込めて手書きにしました。オープンの日、駆け付けた寄贈者から名前が声かけられたときは本当に感動したといいます。

構想から約2年半、昭和63年4月24日に市内外から約1,300人が集い「舞鶴引揚記念館」オープンの日をやっと迎えることができたのです。《引揚記念館》



▲引揚記念館オープンの日に行われたテープカットの様子(昭和63年4月24日撮影)

DVをしない、させない

「ドメスティック・バイオレンス」は直訳すると「Domestic = 家庭内、Violence = 暴力」で略して「DV」と呼ばれています。日本では「配偶者や恋人など親密な関係にあるか、あった者から振るわれる暴力」という意味で使用されています。配偶者からの暴力を防止し、被害者の保護などを図ることを目的として制定された「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」は、「DV防止法」と呼ばれることもあります。

DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、言葉などによる「精神的暴力」や必要なお金を渡さないなどの「経済的暴力」、「性的な暴力」も含まれます。警察庁の調べによると、平成28年のDV事案相談件数は69,908件でした。女性が59,412件、男性が10,496件と被害者の多くは女性ですが、男性の被害者からの相談件数も年々増えており、平成24年には2,372件だったものが昨年にはその4.5倍になっています。

DV加害者となる男性や女性にありがちな特徴として、次のようなものがあるといわれています。

◆男性の場合

◆気が弱く、外での意思表示が下手

- ◆女性に対する束縛が激しい
- ◆仲良くなると甘えたがる
- ◆感情の起伏が激しくコントロールができない
- ◆自分では暴力だとは思っていない

◆女性の場合

◆自分の価値観やルールを強要し、素直にありがとうなどを言わない

- ◆とにかく相手を見下す
- ◆都合が悪いと無視をする、間違えても謝らない
- ◆金銭面をがっちり握る
- ◆精神的暴力を加える

誰も初めから愛する人に暴力を振るおうなどと考えるはいないでしょう。ただ、2人の間で徐々に意見が食い違っていったり、なかなか自分の思い通りに動いてくれないなどの

小さなことの積み重ねによる「パートナーへのいら立ち」が、やがてDVという形で表れてくると言われています。

DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害です。私たち自身がDV加害者や被害者にならないために、日ごろの考え方や言動が上記のような特徴と類似しているところはないか、一度振り返ってみませんか。

《人権啓発推進室》



簡単レシピで手軽にヘルシー まいるるレシピ帖 VOL.17

松尾地区で採れる松尾ゴボウは、長たく、香りが良いのが特長です。松尾の土は耕土が非常に深いため、真っすぐで長いゴボウができます。そして青葉山から流れ出るきれいな水と質の良い松尾の土との組み合わせは格別の風味を生み出します。生産は全て手作業で行われ、ゴボウのように「根強い」気力が必要です。

松尾地区の悠久の自然と地域の人たちの根気の詰まった松尾ゴボウで甘辛唐揚げを作りました。

【協力】谷口久美子(食生活指導士)

材料 4人分

- ◆ゴボウ…200g
- ◆片栗粉…大さじ2
- ◆揚げ油…適量
- ◆カイワレ大根…少々
- ◆砂糖…大さじ1.5
- ◆醤油…大さじ1
- ◆みりん…大さじ1
- ◆白炒りごま…大さじ1

ゴボウの甘辛唐揚げ



1人分 211kcal 塩分0.6g

作り方

- ①ゴボウは長さ6~7cm、厚さ1cm角のスティック状に切って表面に片栗粉をまぶす。Aは小鍋に混ぜ合わせて温めておく。
- ②フライパンに2cm深さの揚げ油を熱し、ゴボウを返しながら2分ほどカリッと揚げる。熱いうちに温めておいたAを絡めて器に盛る。
- ③カイワレ大根を長さ半分に切り、ゴボウに飾る。

一言メモ

ゴボウは食物繊維を多く含み、便秘の解消や満腹感を与える効果も期待できますよ。